

〔例題 1〕 細胞や組織の変性に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. ラッセル小体とは、毒物中毒の際に肝細胞内に認められる硝子滴をいう。
2. 錯角化とは、病的角化のうち、角化が亢進して大量の角質層が形成される病態をいう。
3. 心臓病細胞とは、うっ血した腎臓の尿細管間質に認められる、細胞質内にビリルビンを含有するマクロファージをいう。
4. ニーマンピック病と豚島アミロイド症は、いずれも遺伝性の脂質蓄積症の一種である。
5. 石灰化は、細胞質内にも間質組織にも認められる。石灰化巣は、組織化学的には硝酸銀を用いたコッサ反応で黒色を呈する。

〔正答 5〕

〔例題2〕 魚介類の毒に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. テトロドトキシンを持つ生物はフグ以外にも存在するが、我が国ではフグ以外を原因としたテトロドトキシン食中毒は発生していない。
2. シガテラ毒による食中毒に特異的な症状として、ドライアイス・センセーションと呼ばれる冷温感覚異常がある。
3. 大型の深海魚であるパラムツやアブラソコムツは、肝臓に多量のテトラミンを含んでおり、食中毒の原因となることがある。
4. 麻痺性貝毒は多成分からなり、サキシトキシン、ペクテノトキシン、マイトトキシン等が含まれる。
5. 記憶喪失性貝毒の毒性成分は、藍藻類が産生するマイクロシスチンである。

〔正答2〕